

## 北九州市新型コロナウイルス感染症対策専門家会議について（報告）

構成員：◎岡部委員 和田委員 上野委員 安藤委員 中西委員 羽田野委員  
松本オブザーバー 郡山オブザーバー  
市側代表：北橋市長 梅本副市長 鈴木副市長 田島教育長 ◎…座長

### 第1回 開催

日時：令和2年6月14日（日）13時～14時30分 ※WEB会議

## 本市の感染状況、検査体制、医療体制について

### 1 本市の感染の状況について

- 「第2波」は現在落ちついてきていると評価。どこでも起こり得ること。
- 今回は、医療機関での集団発生や散発例があり、散発例が全域で生じている。

#### 【対応策】

- ⇒病院や施設の事例を教訓に専門家チーム等の協力の元、感染防止策の徹底
- ⇒軽症や無症状が大変多いという傾向についての遺伝子レベルでの解析の実施

### 2 検査体制について

- 引き続き、柔軟かつスピード感を持ったPCR検査が必要不可欠。

#### 【対応策】

- ⇒市保健環境研究所の体制強化とPCR検査機器の増強による、検査能力の向上
- ⇒PCR検査センターの対応能力の強化、民間検査機関の活用による検査体制の強化
- ⇒国の第2次補正予算を活用し、市内医療機関へPCR検査機器購入の支援、医療機関独自の検査体制を強化
- ⇒抗原検査を市内救急病院等に対して配布し救急搬送時の迅速な判断に活用

### 3 医療体制・入院病床について

- 市内協力病院で最大80～100床程度（重症5～10床程度）を確保し、入院受入を実施。※ただし、1日あたりの受入数には一定の限界があるほか、困難例・重症例の発生により、受け入れ能力が低下するおそれはある。

#### 【対応策】

- ⇒患者の発生にスムーズに対応できるよう、市医師会・協力病院とともに「患者発生状況ごとの入院医療体制（病院ごとの受け入れ病床）」を具体化
- ⇒国の推計や県の病床確保の方針を踏まえつつ、市内の最大の受入病床数の拡充を検討
- ⇒県内（市外）の病床・宿泊施設によるバックアップがスムーズに行えるよう、入院調整機能を強化

## 第2回 開催

日時：令和2年6月16日（火）18時30分～19時30分 ※WEB会議

### 現状と今後の方向性、市の公共施設・イベントの再開、 学校の一斉登校・給食の再開、今後の対応

#### 1 現状と今後の方向性について

##### (1) 本市における感染症対策について (2) 国・県・市の対応について

- 市内の感染状況は落ち着いており、重症者も少なく、また検査体制も整っており、病床についても県の協力のもと、重症病床も含めて確保できている。
- 市長から市民に対して病床について準備ができていることを発信することで心配を払拭できるのではないかと。

⇒現在、市民に対してお願いしている外出自粛の解除については妥当である

#### 2 市の公共施設及びイベントの再開について

##### (1) 市の公共施設の再開について (2) イベントの再開について

- 注意すべきは注意したうえで、ある程度の柔軟性は必要。
- 福岡県感染症危機管理対策委員会においても北九州市の解除は妥当であるとの結論になった。
- イベントの段階的再開は嬉しい、景気の刺激策に注力してもらいたい。

⇒屋内施設と市民センター等での貸館業務を6月19日以降再開することについては妥当である

⇒イベントを6月19日以降、国・県の基準に従い開催することは妥当である

#### 3 学校の一斉登校及び給食・部活動の再開について

##### (1) 一斉登校再開について (2) 給食開始・部活動について

- 学校の再開は今の状況ならば妥当である。
- 給食については、児童生徒の感染予防、教員の健康管理を十分に行いながら進めることで再開は妥当である。

⇒学校については6月19日から一斉登校を再開すること、給食を6月24日（水）に再開、部活動を6月24日（水）以降段階的に開始することについては妥当である

#### 4 今後の対応について

- 福岡コロナ警報の基準については母数を考慮して基準を検討する必要がある。
- 指標については医療体制の確保状況など総合的に判断するものがよい。
- 市民へ注意喚起するシステムを検討してはどうか。

⇒福岡県の「福岡コロナ警報」を参考に、市レベルの基準値や、市民に対する注意を促すような仕組みが必要